

「新学習指導要領を踏まえた自立活動の指導計画」



今年度は、下山 直人先生（筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校長）をお迎えし、特別支援教育の基盤となる「自立活動」について、「新学習指導要領を踏まえた自立活動の指導計画」のテーマで御講演いただきました。

講演では、自立活動の意味や、指導の改善の方法を中心に説明をしていただきました。

具体的には、教員が指導するにあたり、まず、「子供が」困っていることは何か、その理由や原因が何かを把握し、課題を明確化することが大切であるという事でした。

実際我々に見えている困難さは氷山の一角なので、それを足掛かりにしながら、子供たちの困難さに関する多様な情報を集めて、それを「見える化」したり、情報の整理をして困難はなぜ生じているのか、困難さの「構造」を考えてみたりすることが、大切になってくるという事を教えていただきました。

これを踏まえ、事例検討を行いました。ワークシートを使用して、児童・生徒の適切な目標設定と、達成に向けた授業計画を立案するという内容でした。

コロナ感染症拡大防止のため、対話型のグループワークは実施できませんでしたが、自立活動の指導計画や授業づくりについて事例を挙げながら取組んだことで、理解が深まったと思います。

最後に、下山先生から「できない」「やらない」という見方から、「何に困っているのか」「どうしたらできるか」という自立活動の視点を持ちましょう。と、まとめのお話をいただきました。

今回の研修を通して、学習や生活上の困難を主体的に改善・克服するためには、いかに自立活動が大切なのかを改めて実感する機会となりました。児童・生徒の日々の様子を捉えながら困難さはどこにあるのか、どのような場面で指導をしていくのか。本研修で学んだことを生かし、実践を積み重ねていこうと思います。

○本研修は、コロナ禍ということと、GIGA スクール構想への対応という観点から、アンケートをデジタル化し、スマートフォンからも回答できるように工夫しました。